

日本鐵鋼協會記事

理事會(昭和10年度第5回)

開會日時 昭和10年7月10日(水)午後5時

出席者 野田鶴雄君 渡邊三郎君 香村小録君 俵國一君
河村 颯君

協議事項

1. 工業品規格統一調査會より照會の件(原案に賛成)

イ、鐵及鋼の記號規格中改正案

ロ、〃 〃 追加案

ハ、マンガン鑛石鑛分析方法的規格案

ニ、〃 硫黄分析方法規格案

ホ、〃 鋼分析方法規格案

ヘ、〃 アルミナ分析方法規格案

2. 動力協會より照會のロンドン世界動力會議國際化學工業會議に關する件

3. 第十二回研究部會開催準備に關する件

4. 第十五回講演大會に關する件

5. 抄録員追加委囑に關する件(氏名別項)

6. 入退會者及び會員異動に關する件(自6月6日至7月10日)

イ、入會申込者 正會員 15名 准會員 28名 計 33名(承認)

ロ、准會員より正會員に轉更者 氏名次の如し(承認)

井口定雄君 稻津健介君 堀岡米吉君 小川雷太郎君 宇田川光七君 野本徳市君 桑田賢二君 湯川正雄君 鈴木千代藏君 平野三郎君

ハ、退會申出者 12名(承認)

正會員 尾崎幸太郎 村上 透 三橋友喜

准會員 野島一男 岡田 巖 川岸壯治 谷地森七郎 深谷權作 介川大治 平塚保明 永岡武夫 星長清一

ニ、死亡者 准會員 2名(氏名前號に掲載)

報告事項

1) 昭和10年6月中收支決算報告

2) 逓信省管船局より照會の造船材料規格案に對し 本會より次の通り回答す。

記

本案は大體日本標準規格に準據するも一部分變更を加へられ居れり、固より相當の理由あることと察するも多少の便宜により標準規格に變更を加ふるものとせば規格の統一、單純化を期すること困難なるに依り、小異を捨て大局の見地より出來得る限り日本標準規格に準據せられんことを希望す、尙用文及用語も成るべく日本標準規格に準據せられんことを希望す。

尙逐條的に意見を述べれば次の如し。

第1條第4項 $L=3.5D$ は $L=4\sqrt{A}$ とされたし。

理由 日本標準、陸海軍、鐵道及逓信省船舶機關規定の規格は本寸法の試験片の場合、 $L=4\sqrt{A}$ を採用せり、故に本規定も $L=4\sqrt{A}$ により度、又 $L=4\sqrt{A}$ にて非常なる不便あると思し難し、第8條及第14條「缺點」とあるは「有害なる缺點」と改められたし。

理由 日本標準 造船用及海軍船體用鋼材規則にも「有害なる缺點」とあり、使用上有害ならざる缺點は之を許容すべきものと思考す。第13條「厚さ 6mm 未滿……」とあるを「縞鋼板(之に類するものを含む)及厚 6 mm 未滿……」と改められたし。

理由 日本標準、陸海軍、鐵道、船體用鋼材規格には凡て縞鋼板は抗張試験を施行せざることを明示しあれば本條に於ても明示するを可と思考す。

第17條第2項抗張力が規格の下限を 1.5kg 以内不足するも超過の場合と同様な理由あるときは合格とする様附記されたし。

理由 日本標準、鐵道、陸海軍鍛鋼材規格共斯く規定しあれば正當なる理由ある場合に限り抗張力の下限を幾分寛大にするとも何等不都合なかるべしと思考す。

「材料及試験に關し尙研究を要す可き事項」に關する意見。

第1條第1項は原案通りを可とす。

理由 日本標準規格以外の試験片を別に制定することは工場作業に不便を來し又切削熱に基く材質の變化は僅少にして實際上問題視するを要せざるものと思考す。

假りに著しき影響ある加工法ありとせば此の如き加工法は之を避くべきものとす。

第1條關係第2項に關しては規定を設くる必要なし。

理由 前項に同じ。

第5條關係 原案通り可とす、但し「試験片採取は横又は縦」とあるを横のみに限定することは差支なし。

理由 試験片採取位置を鋼塊の頭部のみに限る事は作業上甚だ煩雜なるのみならず鋼片使用の場合の如きは實行殆ど不可能なり、而して日本標準、海軍及逓信省船舶機關規格には別に之等の規定なく従つて任意採取するも格別支障なし、依て本規定に於ても頭部限定は取止むを可と思考す。

又理論的に幾分の理由ありとするも簡便を旨とする實用試験に於ては煩雜なる規定を設けざるを可とす。

第7條關係 試験片採取部分の寸法は規定せざるを可とす。

理由 第7條には試験片は物品の一部より切り取るべきことに限られ居るも形状小なるものに於ては之れが實行に困難なる場合あるべし鑄物は其形状千種萬様に於て主體と稱すべき部分の決定に苦しむ場合あり。

供試材と品物とを同時に燒鈍する場合に於て其の大き異れば燒鈍效果に多少の差異を生ずることは免れ難きも品物が充分燒鈍せらるる迄熱すれば其差僅少なり。

實用試験に於ては製作上の便利をも考慮すべきなり日本標準規格其他には以上寸法の規定なし。

第12條關係 鋸の試験数は原案通りを可とす。

理由 日本標準規格と同一にすべきものと思考す。

3) 工學會關係

イ、第三回工學大會委員會第二回會議々事録

ロ、故古市男爵記念資金募集部委員會資料

ハ、工學論文要録集刊行上に關する件
以上の審議を了し午後 7 時散會す

編輯委員會 (昭和 10 年度第 3 回)

開會日時 昭和 10 年 6 月 25 日(火) 午後 5 時

出席者 五百旗 啓君 田中清治君 長尾武雄君 山田良之助

君 足立泰雄君 廣瀬政次君 鹽澤正一君

協議事項

1. 第十二回研究部會討議資料要項決定
2. 鐵と鋼へ掲載の抄録分類改正決定
3. 抄録員増員に關する件
4. 第 15 回講演大會開催準備に關する件
6. 鐵と鋼第二十週年記念號體裁及び目次に關する件
7. 鐵と鋼第 21 年第 8 號論文原稿並に第 7 號上掲抄録原稿決定の件

鐵と鋼第 21 年第 8 號上掲決定論文

- イ、銑鐵の脱硫熔劑……………藤井 寛、小林幸一
- ロ、鐵の磁氣的性質に及ぼす燐の影響…嘉 村 平 八
- ハ、高溫度に於ける磨耗……………藤井 芳 郎

報告事項

1. 商工省規格統一調査會より照會の「鐵及鋼の記號並にマンガ
ン鐵石分析方法規格案」

以上審議を了し午後 7 時 30 分散會す。

鐵と鋼抄録欄の改正分類 編輯委員會にて改正決定したる類別法次の如し。

1. 製鐵原料——鐵鐵、マンガン鐵、クロム鐵、ニッケル鐵、モ

- リブデン鐵、タングステン鐵及び鎢劑等の產出狀態(鑄床)、成分撰鐵、焙燒、團鐵、及び燒結等に關する一切(燃料を除く)
- 2. 耐火材並に燃料及び驗熱——耐火材に關する一切、石炭、コークス、瓦斯及び液體燃料等の產出、製造、用法、性質に關する一切及び溫度測定に關する一切。
- 3. 銑鐵及び合金鐵の製造——銑鐵製造に關する一切、電氣製鐵及び合金鐵の製造に關する一切。
- 4. 鋼及び鍊鐵の製造——諸製鋼法及び鍊鐵製造に關する一切。
- 5. 鐵及び鋼の鑄造——鑄鐵、鑄鋼及び鋼塊の鑄造に關する一切。
- 6. 鐵及び鋼の加工——鐵及び鋼の壓延、牽伸、鍛鍊、熱處理、表面處理、鍛接及び銲接等に關する一切。
- 7. 鐵及び鋼の性質並に物理冶金——鐵、鋼の性質及び物理冶金に關する一切。
- 8. 非鐵金屬及び合金——鐵以外の金屬及び合金の製造、鑄造、加工及び性質等に關する一切。
- 9. 化學分析——諸金屬及び合金の化學分析法。
- 10. 工業經濟及び政策——
- 11. 雜——

抄録委員委囑 前に 19 氏を委囑したるが更に次記の 4 氏を委囑せり。

- 京大冶金學教室 工學士 山本 次 郎君
- 九大 " " 竹山 和 達君
- 八幡製鐵所研究所 理學博士 海野 三 朗君
- " 工學士 大原 久 之君

新入會者氏名

居 所 又 は 宛 名 先	勤 務 先 又 は 職 業	會 員 別	入 會 者 氏 名	紹 介 者
神戸市葦合區東尻池町川崎造船所製鋼工場	工 學 士	正 員	矢 島 弘 一君	巖 勤 郎 雄 郎 郎 郎 郎 郎 郎 郎
神戸市葦合區脇濱町神戸製鋼所	工 學 士	"	吉 岡 潤 一 郎君	丹 村 榮 秀 次 二
荏原區下神明町五二〇 古河理化試驗所 (高輪一八九)	工學士 古河電氣工業會社	"	小 野 健 二君	西 村 武 松
大阪市北區新川崎町一 三菱大阪製鍊所 (堀川三三一)	"	"	四 本 太 郎君	濱 村 村 橋 太 治 郎
大阪市東淀川區三國本町	三國鐵工所々主	"	田 村 源 太 郎君	河 村 中 松 橋 太 治 郎
横濱市保土谷區和田町一	富山藥學士 日本鋼管會社	准員	尾 崎 清 君	菊 地 浩 介
大阪府吹田町泉町三三〇二	工學士 中山製鋼所	"	水 谷 吉 郎君	井 上 克 己
室蘭市茶津町茶津寮内	日本製鋼所燒入工場	"	杉 本 正 二君	伊 藤 新
名古屋市南區東築地大同電氣製鋼所	工 學 士	"	磐 城 恒 隆君	綿 織 清 治
蒲田區小林町二六〇 可知實太郎方	日本鑄造株式會社	"	足 立 竹 雄君	志 村 清 次 郎
神戸市葦合區野崎通五ノ八 安東富士方	理學士 川崎造船所艦船工場 研究部	"	村 上 芳 三君	門 川 勤
目黒區綠ヶ丘二、二八一	工學士 日本鋼管會社 製銑工場	"	市 田 左 右 一君	渡 利 彦 四 郎
兵庫縣西ノ宮市今津町浦風八二	工學士 大阪鐵工所	"	岡 村 正 家君	森 重 候
神戸市林田區東尻池町川崎造船所製鋼工場	川崎造船所製鐵工場熔鋼課	"	岡 村 銑 吉君	谷 山 巖
大阪市北區東野田町大阪帝國大學 工學部冶金教室	大阪帝大工、冶、學生	"	棚 橋 道 三君	藤 井 寛
福島縣河沼郡日橋村廣田 東京鋼材株式會社廣田工場	"	"	横 田 登君	福 留 富 治
秋田縣土崎港町鐵道官舎	仙臺鐵道局土崎工場	"	宮 内 繁 壽君	村 松 橋 太 郎
川崎市新川通四〇	早大、理工、採冶、學生	"	井 口 敏 治君	澤 鹽 正 一

杉並區井萩町二ノ四	早大、理工、採冶、學生	准員	林 健 三君	鹽 澤 正 一
澁谷區代官山町一〇 同潤會アパート	〃	〃	浦 田 洋君	〃
大阪市大正區船町五 中山製鋼所	〃	〃	石 橋 太 平君	井 口 庄 之 助
大阪市住吉區南町東一ノ三二	中山製鋼所	〃	岩 城 靜君	〃
愛媛縣新居濱町惣開	住友別子鐵山會社	〃	松 岡 貞 藏君	吉 田 幸 吉
澁谷區代々木富ヶ谷町一、五四三 龜山方	早大、理工、採冶、學生	〃	太 田 原 雄君	鹽 澤 正 一
品川區北品川四ノ五五七(高輪一一一)	〃	〃	岡 原 晴 雄君	〃
板橋區下神井二ノ一五六六	〃	〃	小 松 正君	〃
大森區北千束町四九八	工學士 日本鋼管會社	〃	本 城 武君	藤 原 唯 義
本郷區追分町帝大基督教青年會館	東大、工、冶、學生	〃	角 田 資 敏君	志 村 繁 隆
吳市警固屋町新開通 水野方	吳海軍工廠製鋼部第20工場	〃	景 浦 賢 三君	武 林 誠 一
大森區新井宿四丁目九七一	三菱鑛業會社研究所冶金係	〃	小 林 藤 次 郎君	河 村 曉
澁谷區代官山町一四	東大、工、冶、學生	〃	村 岸 節 爾君	志 村 繁 隆
大阪市大正區南恩加島町 大阪製鐵會社	〃	〃	和 田 正 信君	佐 野 半 兵 衛
神奈川縣川崎市大師河原町中瀬	日鐵、富士製鋼、作業課	〃	田 中 修君	喜 々 津 信 一
廣島縣賀茂郡廣村海軍官舎丁十六號	廣海軍工廠鍛鍊工場	〃	原 實君	村 松 橋 太 郎
埼玉縣川口市金山町二〇五	日本ピストンリング會社	〃	鈴 木 ^{カズ} 和 ^{ヤス} 保君	〃

鐵 と 鋼 第 21 年 第 6 號
二十周年記念號分讓

本會が創立されてから二十年、この間本會と共に異常な發展を遂げた鐵鋼界の状況を益つたのが、二十周年記念の特別號として「最近二十年間に於る鐵鋼界の發展の回顧と展望」を主題として、實踐は申すに及ばず學術上にも造詣深き二十有四氏の知名な方々が執筆されて居ります。従つてかゝるまとまつた記念號は斯界の羅針盤として座右に具へられるには好適の書と云ひ得ませう。以上の次第で會員へ配布した殘部を一般の希望者に分讓致し度いと思ひます。

代 價 郵 稅 共 本 號 に 限 り 一 部 金 一 圓